



大和名記

茅七 廣瀬郡
茅八 葛下郡
茅九 忍海郡
茅十 宇智郡

2906
572

ル 4
1873
7



陽寺

思

2906
572
4290

1873
7

和列舊跡幽考目錄

第七卷廣瀨郡

百濟宮 百濟大寺 付 祝迦牟

処丸丸池 百瀬川

長琳寺 河合村

廣瀨川 沢田川

廣瀨社 付 御鎮座 ○ 神階 ○ 桑事

廣野 大福寺

牧野基 成相基

三立巴基 延喜式神名帳

和書

第八卷 葛下郡

二上嵩

二上山

神願寺

大坂山

葛城岩橋

當麻寺

金堂弥勒

未座石

○曼陀羅 ○新曼陀羅 ○炎上寺

真院付 源空上人遺像

石光寺 付 弥勒石佛事

横佩基 狛井村 付 源信僧都

腰折田 水越

大和川

朝原

達磨寺

顯崇天皇陵

茅野皇子墓

所思池

龍峯寺

延喜式神名帳

第九卷 志海郡

角刺官

苗吹社 付 遊

所思

朝野

放光寺

武烈天皇陵

孝靈天皇陵

飯豊皇女墓

人磨墳

苗吹池

延喜式神名帳

第十卷宇智郡

井上皇原陵

若宮社

御霊社 付 靈安寺事

矢田島笠辻

楊井

楊井寺

氏智麻呂墓

阿陀墓三基

阿陀大野

小為平山

信土山

角田川

延喜式神名帳

和別舊跡考第七卷

廣瀬郡

百濟宮

百濟七村はささ川二町をとり西は

皇居乃後をり川上ハ越智ゆく川

廣合水よなるがれり

百濟宮ハ人皇女み代舒明天皇乃皇宮

なり

百濟大寺

百濟川より二町西あり川乃東ハ作

味村ありは川乃東ハ十市郡西ハ廣

瀬郡をり三重塔一基堂一宇萬世

よあるふ海のまなく廣瀬郡よ記ハ

代家小... 封邑三百戸... 施入... 乃社乃... 是より... 時西... 河... 縣大... 明天皇乃遺物... 造... 孝德天皇寺院...
後小... 封邑三百戸... 施入... 乃社乃... 是より... 時西... 河... 縣大... 明天皇乃遺物... 造... 孝德天皇寺院...

後小... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇...
後小... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇... 天智天皇...

八臂八刀乃昆沙門城とあり

又丸丸乃三池弘法大師なり

又丸丸乃三池弘法大師なり

又丸丸乃三池弘法大師なり

又丸丸乃三池弘法大師なり

又丸丸乃三池弘法大師なり

又丸丸乃三池弘法大師なり

又丸丸乃三池弘法大師なり

百瀬川

勅撰衣所携津國百瀬郡藤原

百瀬川河

百瀬川河

長琳寺

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

長琳寺又の那蘇寺左の聖徳太子

河合村
泊瀬川と倉橋川乃河合村に於ては古くは三國

萬葉
廣瀬川神は古くありあはれを心持りてしむるは

十五百番
神後して神は古くは廣瀬川を子世よりしむるは

草振
未だ心も廣瀬川より神持りてしむるは

沈田川

川乃遠より沈田村とありあり井懸抄よ

大和國也わりのまはれはも備馬樂莊秘

抄類字若所をどよは山城國とあり

一徑安よありりは沈田川廣瀬川を

トまがれり

拾王
沈田川由記の記は橋に於ては人色は

廣瀬社

廣瀬坐和加字加賣命神社延喜又の所

右の天忌神日本又神膳持若字加賣命

又倉稻龜穀神

乃神よりけ神ハ倭神送倭神若の神

子豊字實乃賣神也て神神宮小

神食神是より

山鎮坐の天武天皇四年四月小竜田廣

瀬神社神後日本本字ハ竜田明神乃

取よありりは天武天皇四年より延喜

七年迄凡一千あり

神階凡真觀元の正月廿七日正一位

寺註

卷七

二

廣瀨聖和加守賀賣命神社
 讚波神社
 雷命神社
 於神社
 衛玉比賣命神社
 雷命神社

和列舊跡函考第七卷終

和列舊跡函考第八卷

葛下の郡

二上山嶽

二上山ともいり葛城山乃肉よりあり

二上山嶽聖豐布都靈神社亦名氏雷記

大將軍聖大國龜乃國津神同

二上山

二上山嶽同山井蛭折類字新二上山嶽伊國同

同若あり

大津皇子乃屍とつらに二上山より代し

蘇我の時大來皇女らみ給ふ秋二首

万葉 同 二上山と云ふは二上山と云ふは

本道より二上山と云ふは

大坂屋平家宛合

新編

我意を二上山乃らるるつら徳をよそけ西のり

後惠法師

大坂山

二上山同山異名藤里大坂村と云ふあり目

本紀大坂山乃石氏運びしと云ふあり

山をりしと云ふ僧よ逢坂村せり

万葉

大坂氏昔越く事二上よおゑふる時

崇神天皇神宇十年九月常流す子けもん

率恒安老の山背國より軍共我率志

奈良坂と強てよそり書乃吾回媛の大坂

て強とあるんと云ふり宿軍の十校行疾命

排然ひく強よ吾回媛と討つり

日本

神願寺

二上山神願寺

帝王編年

元皇代

葛城岩橋

威衰記曰彼行者二上山嶽より神山

以りて石橋成りしと云ふ事あり

金剛山乃杖の如く云ふ事あり

拳小岩橋乃杖の如く云ふ事あり

と云ふ橋也と云ふ事あり

岩橋と彼行者の杖の如く云ふ事あり

乃通脚よ岩橋成りけるんと云ふ事あり

余代うけ指小只うづり事の一言に神

我と云ふ事あり

我と云ふ事あり

我と云ふ事あり

我と云ふ事あり

拾遺 後拾遺
 此のまじりけ半書しく小佛れのみ畧れ
 舊の巻乃其りて後拾遺の神
 中絶の舊山乃舊稿のまじりて半書しくもわづらひ 相摸

當麻寺 寺領三百石 淨土真言二流

二上山 万法慈院 淨林寺 又ハ當麻寺と云
 以ハ麻呂古親王乃由建立するりて之ハ推古天
 皇乃御宇廿年河内國山田郡ノ由建立す
 してて万法慈院と云 伽藍ありて佛り其
 西ハ今乃味曾越るり 淨林寺乃此を役
 小角徳神と勸修ありて勸修乃勝地なりし
 天武天皇白鳳二年麻呂古親王塔婆を
 彫りて世後ひく河内由万法慈院と云
 ようして結ひるん乃由心ありて之を天武天

皇ノ奏國師經所世後ひく靈友氏勸修
 内りて麻呂古親王刑部親王氏勸修と
 志く後小角乃後小角乃由建立す
 十年寺と云りて之ハ同若法ありて之ハ淨林
 寺也号す之も寺なり 淨林乃導師を聖灌
 僧正也 白鳳十年より延寶八年迄凡一
 千餘年 爾書 相又當麻寺ハ名ハ當麻
 園見真人と云あり 祖父麻呂古親王乃
 於寺と云ハ今又我姓と寺号と云らん
 として當麻寺と改名ありて之ハ園也 爾書
 金堂 淨土勸修の薩の丈六の佛あり 佛胸よ
 一擲手也の孔在明王像と納りて之ハ

孔養の王は彼小角大峯三重乃滋乃上よ
まゝ龍骨持たりあやもやも不動尊よい乃
りくふ海三生乃骨ぞうけ山よとこ
るふ事七生よとよなりとさりまうあうば
とく獨法ととりて汚なまうまう像あり
冷け大峯三重乃滋乃納めまうぞぞ堂
内乃靈佛とまうれまうとあわう折百卷又
金堂乃前よ一言まの神乃米塵乃石又
瑞籬乃内の石乃慈野推現光向乃西より
法堂覺法を入るべしなり
曼陀羅堂曼陀羅ハ横佩右大臣畫成
乃娘中將局法法若乃誓願小勢て西方

の教主化人とあうられ蓮名法もく一形よさり
わうのまくえのまを後の淨土乃變相の南世
まぐ織殿とく一間西ありりくハ新書又書
山上人爾答上人乃折ありり乃變相の中品
上生と中品中生乃中間ハ織著乃緣起ハ
百十三字あり其初曰ク
此大曼陀羅者人王四十六代帝孝謙天王政也
依中將局願織變繒圖顯莊嚴是則厭離穢惡
境界末願西方極樂世界自茲道心堅固一食
長齋天平寶字七年六月十五日无着世間參
籠此寺但有淨土經書寫願自去寅年夏六月
時時末此場稱彌陀行任坐卧偏專敬至鳥呼
懸憑二如來之誓約運思三菩提之法輪故尋

和 卷八 十三

花色厭女身捨金衣初无生於人間不見貪落
 於鬢髮久失天上之雲志存明累依之禪尼一
 人不圖來以蓮為象寺異角穿井雖高乾元冰
 之土如志願修得之成五色然問同來一人織
 女執絲寄堂乾角造織阿彌陀淨土變一鋪又
 寫稱讚淨土經一千卷深須戴受持以縷繡百
 袋入之縱使於未來世雖片端之見聞於一佛
 土為淨業之主伴此愛相者不簡親疎為憂患
 者顯之皆蒙授記有得益之切今應欲拜生身
 之願織觀無量壽經曼陀羅初文為序起惡指
 掌善分定散入未利夫人清淨室說一乘來韋
 提希女莊嚴宮教西方今為中將局願彌陀現
 亦然冀臨終正念而傾西夕見佛早則預彌陀

如來來迎必坐九品之榻願此功德回法界利
 生不限人普及四生傍共開生九品之志天平
 寶字七年歲次癸卯季夏六月二十三日
 ▲曼陀羅九百十餘歲淨修々延寶年
 中りや梅子代補ひ表をとわくこころ
 きりしる靈瑞と有り梅まきく鬼河清い
 ありよのぞみくを眼とあらあがりめ心感
 所よ染して絶え見來表具師等あま
 こ衣と曇り保傾來淨女乃身とそま
 きり梅舊軒け函座り納光道場をけ
 新曼陀羅とけきこころ
 ▲新曼陀羅八天平寶字七より四百八
 十年と終々女御門院乃此字義元二

世よ後石也の奇異乃靈寶あり

石光寺

石光寺又ハ深野寺先ハ史石光寺ハ天智天皇乃此宇夜々小光あり官使よ召付きて之の石也世後ハ三大石あり此佛像小似たりと後奏すより三石成油勅三宮よ之は内々堂成之也世後ハより石光寺の者あり又深野寺と云ふ事ハ曼陀羅の蓮華と云ふ後ハ西宮也ハ石あり而卷微著縁起ハ寺巽角穿井雖も乾云氷之也如志願供得之成五色とあり云々後ハハ石取より又一本乃揚わり役小角佛信也と云ふを括る也と誓ひし人々云々

枚葉之びりて今おわり

横佩墓

横佩右大臣豊成ハ氏智麻呂乃長男陸海云の嫡孫正二位右大臣藤原朝臣豊成と云人なり横佩ハ廟所乃者よりりてハ云なり天年實字八年よ葬り而卷年六十二又乃仇藤原氏豊成ハ天年神護元年十一月り卒云云なり續日本紀より云々

瓶井村

當麻寺よりハ寺里余一宇ハ堂あり惠心院源信僧都乃誕生の地也父ハ正親母ハ清原氏天慶五年壬寅歲大和國葛城郡よ云々云々後ハ正統統新書曰和列葛本郡

の上人同時代乃人なり 撰集抄 通要 又乃既り
 解脱上人乃墳一三重塔式多々草室
 城角入達磨寺也号多々死と色尸あり監
 鯨は推古天皇廿一年十二月太子所居山
 の邊中して飢人道のころりよぬ多々の見
 後ひく姓をとりせ後ひくもあへん太
 り飲食をわへん衣裳をぬぎくられよせ
 るどし後ひくやましくぬをれよ別所秋
 志きて於や 級照や私記曰山乃之奈倍留也 うろり山よ 斤思
 以ひよえそ 飢飯 やさそ也 矢た此の若もを死
 無君 飢飯 也 飢飯 寝卧その後人と
 ありれ

右の日本紀注ハ叙日本紀よまきりハ叙と類駿國

史ゆは

志れてさやうう山乃いひまう今やの諸人あり

返

いさるも富れ水乃縁にそ我大君は君を念れ免
 也の勝うもころり相聖日飢人死より太子り
 命み後ひくその死り埋三葬と後ひまき
 後日予紙強てう乃屍骨城んやめ後ひは
 衣服と棺の上りうみく屍骨ハあり
 きりそさぬ城より久しせく後ひれ
 服と西ひたれバ時乃人ハとあへみ聖れ
 聖蹟志まする事あれ実をんるをこひひあ
 へりたり 紀日本 今んるよ堂乃より人乃碑塔よ
 へりく見くころり是ハ東福寺惟背新尚の

三つまつりあり

放光寺

達磨寺より坪二町なり

王林 由世

五寺村と云所より礎石あり

放光寺ハ又五寺と云聖徳太子御建立四

十六ヶ寺乃目録よのこり依養乃會月

よ尊像光輝をあり後ハ王林ハ靈瑞神教

感ゆしくて推古天皇御蓋河内造宮内

少く放光寺と号とさせ後ハ起

顯宗天皇陵

人皇女四代顯宗天皇ハ傍丘磐杯南陵

大和國葛下郡ヨあり延喜又ハ斥置石上陵とも云り

編年 御宇三月四月八日宮ありて

後ハ仁賢天皇元年十月よ陵より

一なる日本延喜七年迄凡一千百九十二年

武烈天皇陵

人皇女六代武烈天皇傍丘磐杯北陵大和

國葛下郡ヨあり延喜御宇八年十二月ヨ列

城宮ありて為御あり後ハ武烈天皇

二年十月ハ陵より一日本延喜七年

迄凡一千百七十四年迄

茅渟皇子墓

茅渟皇子ハ斥置葦田墓大和國葛下郡

ヨあり延喜茅渟皇子ハ押坂炭人兄皇子ハ

御子也敏達天皇の皇孫也

本紀日

孝靈天皇の陵

倭よひそくせあ乃坂城の所りて馬乃坂
坂といぬ奉乃垣戸といふ所あり東の
あしひ一基あり一田島とをわたりとあり
孝靈天皇八所丘馬坂陵大和國葛下郡よ
あり延喜濟寧七十六年二月為所なり後
ひと孝元天皇六年九月は陵よりうへ
なり日本延寶七年乙丑一千八百九十四
年死

肩置池

達磨寺良邊葦が池といふあり
肩置池ハ推古天皇十の年より一と文
飯豊皇女墓

飯豊皇女ハ垣日墓大和國葛下の郡よあり
延喜

顯宗天皇五年十一月為後ハ死日本延寶
七年乙丑一千八百九十一年死

龍峯寺

當麻寺より北中里なるり當世加守
村といふ所なり

龍峯寺又ハ掃守寺といふ所なり乃所代の
皇子よりやゆりけむ龍と化して雲よ系

寺代建訪峯寺といふ所ハ後ハけりといふ
後記

栴下人麿墳

栴下村乃なり人麿乃墳わり栴
本寺也といふ所あり

栲下朝臣人麿の家ありて生まじき栲のより
古墳ありて村老と云ひしは古墳に記さるる
しりしは色袋草紙朝野会載後世徳物記
詞林採葉後本朝文粹をどしゆ色り乃朝臣
乃生而汝く死もりくれども只懐廢國の衣
浦乃人麿れ古墳の碑後曰人麿乃汝死の
孝服天皇乃皇太子天足彥國押人命世
よ御くして敏達天皇乃御宇よあり
く乃門逸よ栲樹あり先よりるん栲下れ
年と後おとましくおまよ敏達天皇の十市郡
殺余幸玉宮よありしゆをると日本紀よ
乃くくり葛下郡と十市郡と別郡と
以どもそ行遠くもあらはれり

や栲本乃氏汝後ひきくる後ゆき傳りるむ
又乃汝は古今集權乃よひましく石見國よ
家君と云ふ人乃後苑乃栲樹より人麿化
生し後ひしより栲下の氏とぞ後りまかりの朝
長るん孝服天皇より世く乃素尊よそ傳り
のりくまかり只ひはく乃生まじき色乃あり
取れざりありしゆとみどもゆきんて傳れ
又或人大和國よ人麿乃古墳ありて教
ありしゆ色ありしゆ記事よありしゆありあり
阿志巴郡上郡葛下郡吉野郡ありけ
記色人麿の墳よとありしゆ色人麿
乃事ハ記さるる汝めありしゆ色バ志くはくあり
は西乃石文よあり

葛下郡神名帳十八座延喜

葛木倭文堂天羽雷命神社長尾神社

石園堂多久玉神社二座

調田堂一事尾古神社

金村神社葛木御懸神社

深溝神社志都彦神社

伊射奈皮神社當麻山神社

當麻都比古神社大坂山神社

葛木二上神社二座火幡神社

和別舊跡幽考第八卷終

和別舊跡幽考第九卷

忠海郡

角刺宮

忠海村ありあり西り西過村東より東過

村南より南新内村ありありありは忠海

村や皇宮乃後よりありあり

角刺宮人王女三代清寧天皇五年正月

角刺宮より後ひく皇太子億計王と水青弘

計王と水青弘皇太子億計王と水青弘

久保御位ありあり日代孫ありあり御妹孫あり

おりあり飯豊青皇女忠海角刺宮あり

遠朝東政志後ひくありあり忠海飯豊青

皇と名系後ひく文世より奇はけりてうくふ日本

和列舊跡幽考第九卷

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

和列舊跡幽考第十卷

宇智郡

并上皇后陵

吉野川方古皇宮なり南出山村あり

并上内親王と聖武天皇乃後宮あり孝徳

天皇乃内妹とてゆりて聖武元年元仁

天皇の皇妃よとて遷居せし此版もく其ゆり

他戸親王と皇太子小正入繼ひしが皇妃あり

此心ありつる事と宝龜三年皇妃乃位はとめ

他戸親王乃皇太子の位とありけり同四年

大和國宇智郡没官に宅ありしあり後ひ

同六年四月皇妃皇太子をよれし後ひ

あり

後日 本紀 宝龜六年より延寶七年と云

地獄のよ厚毎のゆりてくまげくようなり
あ天曆の仲康成重福ふりてと
りなり心奪るの代ありて業と
殺母の罪ぞくゆりてまは地獄にぞ
おその炎焼乃月よ夫回寺乃地獄をゆ
り後ひく獄卒よ康成とあひうけ
後中とせひひより獲生をりひとらゆ
て夫回寺よゆりばり奉他念あり或
曉夫回寺よゆりてとんとあてりま
掃井のりりり小地獄を奉徳ゆりて
ふより後をく奉る奉りて
奉りて礼拝とくきんその志とて
也蓋とくけとくまうより蓋下乃名あり其

後康成みおりて流よをうと礼拝を
とよりきり 夫回寺 縁記 天慶五年より延寶七
年迄凡七百廿八年なり

掃井 蓋下より西八町をり須恵村乃津
よあり井乃横九尺竖五尺なりと
あり

掃井寺 次五村よあり
掃井寺ハ天曆の仲氏者而康成が建
り天文女二年鑄造乃鐘の銘あり
くんく

氏智麻呂 宇野村よあり
氏智麻呂ハ後阿陀乃墓大和国宇智郡

小あり延喜式智麻呂ハ不比等乃長男なり
 天平九年七月籍見ありびよ男ハ成代
 たりて正一位とゆはれをた大御小信と
 まつぐその日薨とす是レ後日平六十八帝王本紀
 天平九年より延喜七年迄九百四十
 三あり

阿陀墓三基

一基ハ五条村より一里たりり
 方小あり信よ王乃墓と云はれ川村
 ありあり一基ハ六条村より二里たり
 東山あり新野川より南乃あり
 南阿陀村乃より一里あり信よ王墓
 と云一基ハ六条村より三十町たり

うーとろよあり信よ王墓と云ふ一むら
 しむもやありむむは墓より大木乃
 叙ありとありむと一人ありと後
 里ゆくとあやとけりとむよのたの墓
 したありとむとゆはれ三基ハたき
 とわりりごとくきまこはるの三基ハたよあ
 死つれ

阿陀墓ハ膳太政大臣藤原朝長良繼平城
 天皇祖父大和国守智郡小あり延喜平城
 天皇乃母藤原乙牟漏乃父あり沙三基
 乃墓ハ親王ありびり雷神をど乃像よ
 ありりやありとありとあり

阿多田野

宇智神社
 阿比賣神社
 宮前霽靈神社
 高天岸野神社
 高天山伏太雄神社
 丹生川神社

一 落尾背神社
 二 荒木神社
 一 大見神社
 二 大見神社

和列舊跡幽考 卷十

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

